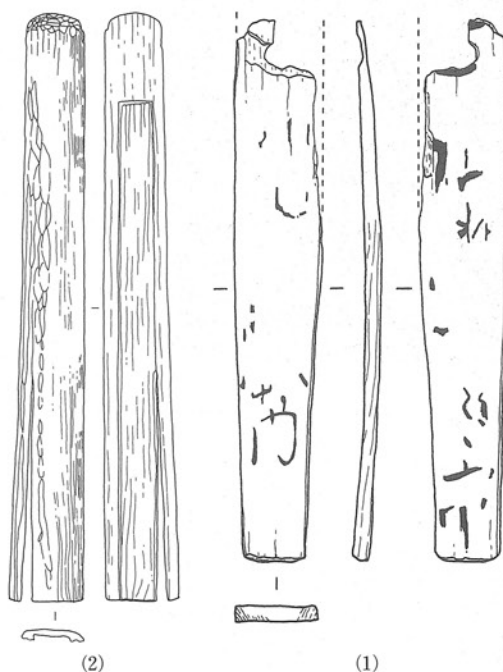


なお、木簡の釈読は当協会島居信子氏の検討による。(清水 和)



# 大阪・長保寺遺跡 ちようぼじ

1	所在地	大阪府寝屋川市出雲町
2	調査期間	一九九二年度調査 一九九二年(平4)一二月 一九九三年三月
3	発掘機関	寝屋川市教育委員会
4	調査担当者	濱田延充
5	遺跡の種類	集落跡
6	遺跡の年代	古墳時代中期(五世紀) 室町時代(一五世紀)
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	長保寺遺跡は、寝屋川市のほぼ中央部に位置する古墳時代～中世の集落遺跡で、標高約四mの低地に所在する。遺跡の中央で北から南に流れる、寝屋川の旧流路と推定される古墳時代～奈良時代の自然河川が検出されており、この河川が形成した自然堤防上に立地していると考えられる。



(大阪東北部)

今回紹介する木簡が出土した調査地（C B J 九二四区）は、遺跡の南西部に位置する。旧水田耕土・床土層を除去した段階で、古墳時代中期～後期と中世（二世紀～一五世紀）の複数の時期の集落に関連する、柱穴・井戸・溝などの多数の遺構が同一遺構面で検出されている。

木簡が出土したのは、調査区の東側で検出された、南北方向に流れる溝一である。溝一の南北は調査区外に続いており、また、東側の肩部は調査区外で未調査である。検出された長さは三〇m、幅三m深さ一・五mを測る。西側に隣接する調査区でも同規模の溝が検出されており、それを参考にと、幅は四～五mに復原される。溝の埋土から出土した土器は一二～一五世紀に比定できるもので、瓦器・土師器・国産陶器のほか、中国製青磁・白磁が比較的多く認められる。この溝については、規模・出土遺物などから屋敷地（居館）に伴う堀と推定される。調査区の南東隅に堀が途切れる部分があり、ここが陸橋（入口）に比定される。

木簡は溝の底に近い下層の埋土から出土している。

## 8 木簡の釈文・内容

(1)

「  
不浄□□  
奉□念佛頂尊□□羅尼一千□□□□  
遍之カ  
（419）×76×2 019

頂部を山形に加工した材の一面に、文字が書かれている。墨痕は薄くなっているが、文字が隆起したように遺存しており、赤外線テレビより肉眼による観察の方が、文字の判読がしやすくなっている。「佛頂尊」<sup>〔勝陀カ〕</sup>「羅尼」は、「佛頂尊勝陀羅尼經」のことと考えられる。同様な祈念文をもった木簡として、「奉加持佛頂尊勝陀羅尼經一千遍砌也」と書かれた大阪府東大阪市西ノ辻遺跡出土品が知られる（本誌第七号）。

なお、文字の判読については、奈良国立文化財研究所の綾村宏・山下信一郎両氏にご教示いただいた。

## 9 関係文献

濱田延充「長保寺遺跡の発掘調査成果」〔大阪府下埋蔵文化財研究会（第二八回）資料〕一九九三年（濱田延充）